

15. 和束町の景観変遷調査

京都府立大学文学部地理学研究室

1. 概要

和束町史の調査の一環として、1980年代に和束町のケーブルテレビで放映された町内各区の映像資料に映る景観と現在の景観とを比較する作業を実施している。その過程で聞き取り調査についても実施することができた。

2022年度は下記の要領で実施した。

- | | | |
|--------------|---------|----------------|
| ・2022年5月16日 | 中区・園区 | 上田龍摩・西 真歩・上杉和央 |
| ・2022年7月4日 | 釜塚区 | 永田秀悟・西 真歩・上杉和央 |
| ・2022年7月25日 | 南区・杣田区 | 岩本悠梨・西 真歩・上杉和央 |
| ・2022年11月15日 | 白栖区 | 上田龍摩・廣澤俊祐・上杉和央 |
| ・2022年12月13日 | 白栖区・撰原区 | 廣澤俊祐・馬籠 翔・上杉和央 |
| ・2023年1月23日 | 石寺区・原山区 | 岩本悠梨・西 真歩・上杉和央 |
| ・2023年1月27日 | 門前区 | 西 真歩・廣澤俊祐・上杉和央 |

2. 成果

40年ほど前の景観から大きく変化した点がいくつもあるわけではないが、それでも確実に変化を見て取ることができた。たとえば図1は中区から園区の方角を写した写真だが、手前の茶園が覆下茶園になり、また遠方の斜面地にある茶園の位置が変わっている。こうした調査により、20世紀後半から21世紀前半にかけての地域の変化の方向性の一端を確認することができた。次年度も調査を継続し、和束町史に成果を反映させる予定である。



図1 景観の比較

(左：1980年代の映像記録の切り抜き、右：2022年5月16日撮影)

編集後記

フィールド集報は、刊行当初より Adobe 社の InDesign を利用して組版作業を手作りでおこなっている。InDesign の取り扱い、歴史学科文化遺産学コースのうち、考古・建築・地理の実習メニューに含まれ、本書の一部については、そうした実習のなかで学生が組んだものとなっている。

今年度のフィールド調査においても、各地で多くの方からのご理解とご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。歴史や文化遺産にかかる調査は一人では決して成しえないということを、今後も常に意識するように努めたい。(う)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第9号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2023年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
